

指揮者が違うと何が違うの？ - チェリビダッケの場合

「何で、同じ曲のCDを何十枚も買うの？」とか、「この指揮者が良いて言うけど、指揮者が違うと何が違うの？」と訊かれたことが何度かある。
何で不思議なのか、不思議でならない。

例えば、肉ジャガはどうだろう？

一軒一軒味が違うのを疑問に思う方は余りいないだろう。 ジャガイモは男爵かメークインか、切り方はどうか、味付けの甘い辛い、グリーンピース容認派…隠し味まで考えれば、幾らでも違いがある。

同じ家の肉ジャガでも、今日の味付けは失敗したとか、今日使ったイモは何時ものより水っぽかったとか、作る度に味が違うはず。

音楽も同様。 最大100人超のオーケストラならば尚更違いが出てくる。 例えば、同じ箇所でも、「フルートの旋律を際立たせる様、弦は押さえて」とか、「15小節後のフォルテを効果的に聴かせるために、旋律を丁寧に歌うよりも、テンポ感を大事に」とか、指揮者それぞれの工夫が生きてくる。

論より証拠。

僕の好きなチェリビダッケという指揮者を例に、極端に違いの判る演奏と交互に聴いて頂こう。 聴き終えた時には、「指揮者の違い？当然でしょ」と言って貰えたら、企画した甲斐があるってものです。

シュトラウス、ヨハン息子: こうもり序曲
クライバ、カルロス / ウィーン・フィル / 1989.01.01
チェリビダッケ、セルジュ / ミュンヘン・フィル / 1991.02

ヘンデル: 合奏協奏曲第1番 作品6/1
リヒター、カール / ミュンヘン・バツハ管 / 1970.06
チェリビダッケ、セルジュ / ミュンヘン・フィル / 1991.06

(休憩)

ドヴォルザーク: スラヴ舞曲8番 作品46/8
スワロフスキ、レオス / オストラヴァ・ヤナーチェク・フィル / 2003
チェリビダッケ、セルジュ / ロンドン交響楽団 / 1980.04.18

シュテファン、ルディ: 管弦楽のための音楽
ツェンダー、ハンス / ベルリン放送響 (現ベルリン・ドイツ響) / 1983.04.20-23
チェリビダッケ、セルジュ / シトゥットガルト放送響 / 1980.02.23